

展覧会情報

「古戦場絵図・武具図展」

会場 千秋文庫

電話03-3261-0075

期間 9月1日(月)～12月13日(土)

「横浜ステーション物語～そこは昔、海だった…」

会場 横浜都市発展記念館

電話045-663-2424

期間 11月20日(木)～1月12日(月・祝)

企画展「描かれた社寺」

会場 神奈川県立金沢文庫

電話045-701-9069

期間 12月11日(木)～2月15日(日)

「第14回児童生徒地図作品展」

会場 岐阜県図書館世界分布図センター

電話058-275-5111

期間 11月1日(土)～12月28日(日)

「古地図の世界－巡礼図－」

会場 岐阜県図書館世界分布図センター

期間 平成21年1月6日(火)～3月26日(木)

mini地図NEWS

■ 日本一短い川誕生

平成20年10月21日に二級河川に指定された「ぶつぶつ川」(和歌山県那智勝浦町)。長さ13.5m、川幅最大1mの超ミニ河川です。右写真(和歌山県提供)の奥が源流で手前が河口(粉白川)ですが、これでも立派な川。ちなみにこれまでの最短は北海道のホンベツ川(30m)、準用河川では山形県の東町塩野川が15mでした。逆に二級河川最長は和歌山県の日高川で指定延長114,745m。(那智勝浦町公式サイトより)



巡検開催のご案内

■ 初冬の草加を歩く(再掲)

平成20年度第2回巡検を12月に開催いたします。草加煎餅で有名な草加市内を歩きます。

ご案内:伊藤 等先生(日本大学)

開催日:平成20年12月6日(土)

荒天の場合は12月20日(土)に順延

定員他:約20名。参加締切は12月3日(水)

申込み:電話 03-3262-1486 Fax. 03-3234-0872

mail chizujoho@nifty.com のいずれか

集合:東武伊勢崎線「松原団地駅」改札外 10:00

ルート:百代橋→草加市伝統産業展示室(10:15～10:

45)→渡辺教具製作所(11:00～12:00)→昼食(12:

20～13:00)→札幌河岸公園(旧日光街道)、松尾芭

蕉像・甚左衛門堰(13:15～13:40)→おせん公園・おせん茶屋(13:50～14:20)→市立歴史民俗資料館(14:50～15:30)→東武鉄道草加駅で解散。

参加費:1,000円(資料費等)。なお現地までの交通費、昼食代は各自ご負担下さい。

ご注意:軽快で歩きやすい服装でおいで下さい。天候や諸事情によりルート等を変更する場合があります。市街地ですので、車の通行にご注意下さい。参加者には集合場所と簡単なご案内をお送りします。

■ 羽田巡検

平成20年度第3回巡検を来春に開催いたします。漁村から国際空港のある町へ変貌を遂げた羽田・穴守稲荷周辺を過去と現在の地図を見比べながら歩きます。

詳細については現在検討中です。次号(平成21年2月末発行予定)でご案内いたしますのでご期待下さい。

地図絡み

第35回 2万分1父島

帝京大学理事 井口悦男

(08.11.23)

伊豆七島の南には、鳥も通わぬと唱われた現、リゾート地、かつての為朝伝説地八丈島があり、さらにその先南の涯に、旧国名で呼ぶことのできない、本土から1,000キロ以上離れた小笠原諸島がある。1,000キロといえば、東京から西へ、下関、北は、札幌あたりの遠方にあたる。

ここは、いまだに汽船でしか通えない所、緊急時に自衛隊の水上機が達する場所である。火山性の北緯30度より南の離島であるが、伊豆七島とともに東京所属で、品川ナンバーの地域である。

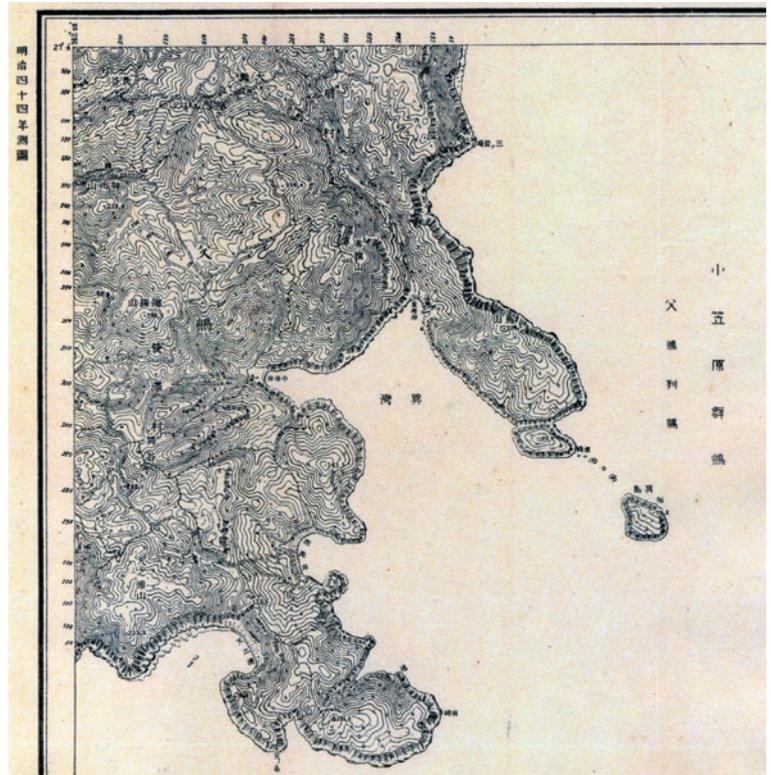
その中心の島、父島に北の兄島を含めた、明治末(44, 1910)年測の2万分1「父島近傍」(仮製版)4面が、伊豆大島や伊豆半島の南端沖の神子元島から、飛び離れたようにある。2万5千分1に切替えられる直前の図域のひとつで、軍事上意味があつてのことであろう。

この図群と現在の2万5千、昭和44(1969)年測と比べてみると、この間60年ほどの隔りがマサカと思っていた、島の形、すなわち海岸線の出入りの描線に微妙な違いのあることを知らされた(図)。地形図に限ってあり得ないと思ひ込んでいただけに、少なからずショックであった。60年の間の測量方式の変化にあると言うところであろう。

この後大正初年、北千島5万分1測量のおりには、担当測量師の記録によれば、北方の悪天候の無人島という悪条件に対応して、小型軍艦「大和」に横須賀から大量の測量資材に止まらず、食料、こまごまとした日常用品を積込み、根室から測量人員も便乗し、短い夏の期間に、道のまったくない急崖地の多い測量の労苦から見れば、小笠原の記録は知らないが、住民はいるし、小道も部分的に開かれた南国小島の測量は、比べて格段に易しかったにちがいない。

にもかかわらず、海岸や周辺小島の描線が違い、その上に例えば海岸の断崖表現であれば、1色刷陸地測量部作成図での中央山岳部に見られるのと等しく、目に強く訴える

記号による火山性断崖海岸が続く。第2次大戦後の色刷時代の図描は、単に表現法の変化にすぎないとは言え、比べて不思議な思いになる。



現在の図と比較して明治末の2万分1図の海岸描線の相違と、海岸断崖の表現に差のあることを知らされる。

上: 2万分1「父島東南部」明治44測

下: 2万5千分1「父島」昭和44測、平成3修正